ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

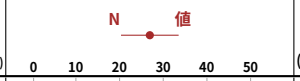
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	No.3	調査位置				北　緯	36 ° 47 ' 52.0000 "
発 注 機 関	栃木県大田原土木事務所			調査期間	2009-11-04 ～ 2009-11-09	東　経	140 ° 14 ' 56.0000 "
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	237.65 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	10.20 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	237.10	0.55	0.55		シルト (M)	黒褐			上部少量の礫混入、全体に植生根混入 下部砂質状を呈す		
1 2 3 4 5	231.85	5.25	5.80		粘土混り砂礫 (GS-C)	茶褐			礫はφ10～30mm程度の亜円礫主体 礫間は細砂～粗砂と少量の粘性土（シルト・粘土）で「中位～密」に充填される 所々φ50mm内外の粗礫点在 -3.8m付近より粘性土分が若干多く混る -5.30m付近にコア長L=120mm程度の玉石点在 全体に風化礫が多く含み、礫間充填物の風化もみられる		11/06 4.40 11/05 5.45
6 7	230.25	1.60	7.40		風化泥岩 (Ms)	灰			固結程度は極めて低い強風化岩、大部分固結シルトの土砂状を呈す 一見岩盤としての区別は難しく、絶対的な硬さとしては極めて軟質 コアは概ね土砂～粘土状を呈す		
8 9 10	227.45	2.80	10.20		泥岩 (Ms)	灰～暗灰			岩芯まで風化した泥質岩主体で、ハンマーで簡単に崩せる 岩盤としての絶対的な硬さとしては軟質 無層理塊状で、ほとんど節理はみられない コアはおおむね固結粘土状を呈す 一部砂岩状を呈す		11/07 9.22 11/09 10.22

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	5	5	6	16／30	16
1.45					
2.15	5	8	6	19／30	19
2.45					
3.15	10	13	11	34／30	34
3.45					
4.15	5	5	11	21／30	21
4.45					
5.15	9	41／5		50／15	>50
5.30					
6.15	3	6	7	16／30	16
6.45					
7.15	3	6	13	22／30	22
7.45					
8.15	11	22	17	50／30	50
8.45					
9.15	50／7			50／7	>50
9.22					
10.15	50／5			50／5	>50
10.20					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						11/05
						11/06
						11/07
						11/09